

≪今週号の主な内容≫

■先週・今週の報道発表

RPPC に関連する報道発表は特にありません

■RPPC 事務局からのお知らせ

H28 第 1 回循環資源利用促進部会の開催について（8 月 23 日）

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. コンクリ工学会、未利用資源の利用拡大へ提言
2. 徳山下松港新南陽処分場の容量拡大、ドレーン材で圧密促進へ
3. 北九州港新門司地区航路整備で第 3 次浚渫工事

=====

◇H28 第 1 回循環資源利用促進部会の開催について

平成 28 年度第 1 回循環資源利用促進部会を、下記の通り開催致します。

日時：平成 28 年 8 月 23 日（火）15 時 30 分から 17 時

会場：みなと総合研究財団 3 階会議室

出欠について、8 月 9 日（火）までに事務局へご連絡いただきます様
お願い致します。

=====

◇リサイクルポートに関連する最新の情報

1. コンクリ工学会、未利用資源の利用拡大へ提言

日本コンクリート工学会は、コンクリートにおける未利用資源の利用拡大に関する提言をまとめた。石炭灰やスラグ等といった産業副産物の利活用に関する技術開発・利用促進には制度・体制・市場のあり方など解決すべき課題が多くあるとし、推進すべき方策等を示した 12 の提言を掲げている。同提言は「コンクリートにおける未利用資源の利用拡大に関する特別委員会」において検討してきた。

12 の提言の一つには、▽限りある天然資源を最大限有効利用する、といった項目を掲げている。海外から輸入した貴重な素材から副産される資源（鉄鋼スラグ、非鉄スラグ、石炭灰等）を利用することが持続可能な社会形成といった観点から重要であると指摘。

また利活用にあたっては、資材、材料としての高い品質を要求せず、その材料を使用した製品・構造物としての出来形（利用有姿）の性能を想定した上で、材料の品質を評価するような考え方を導入するなど、新たな未利用資源の品質の評価方法、について検討を進める必要があると提言している。そしてコンクリート材料だけでなく地盤材料など分野横断的で包括的な利活用推進、広い視野に立脚した循環資源の考え方導入、等が求められるとしている。

【港湾空港タイムス】

2. 徳山下松港新南陽処分場の容量拡大、ドレーン材で圧密促進へ

中国地方整備局宇部港湾・空港整備事務所は、徳山下松港新南陽地区の直轄土砂処分場において場内の圧密沈下を促進する工事を行い、浚渫土砂受入容量の増大を図る。今年度に外周護岸内側に沿って重機を入れる通路としての表層固化処理を行うと共に、処分場内部にドレーン材を打つ工事も一部実施する。29年度には処分場全域の圧密促進を図る方針。

徳山下松港新南陽地区の直轄土砂処分場（約21ha）は約290万立方mの受入容量があり、25年度から新南陽や徳山地区の航路・泊地浚渫から発生する土砂の受入を開始している。ただこれまでの受入で容量の限界に近付いており、今年度分を受け入れるとほぼ満杯になる。このため同処分場の容量の受入容量を増やすこととし、今年度と来年度で内部の嵩下げのための工事を行う。

圧密促進工事によって処分場内部は約4m程度沈下するものと予測しており、概ね約50万立方程度の容量拡大を見込んでいる。

【港湾空港タイムス】

3. 北九州港新門司地区航路整備で第3次浚渫工事

九州地方整備局北九州港湾・空港整備事務所は、北九州港新門司地区の航路水深10m（暫定水深8m）の第3次浚渫工事の入札手続きを進めている。浚渫土量は約8万立方mで、浚渫土はバージアンローダーを通じて苅田沖土砂処分場第3工区に土捨てする。

新門司地区航路は水深10m幅員400mが港湾計画に位置付けられている。現状は暫定水深8m幅員400mの確保に向けた取組を進めて来ており、28年度事業で同暫定水深をほぼ確保できる段階まで進捗している。

今回工事は同整備計画の一環として、現在施工中の今年度第2次浚渫エリアの隣接部。航路の東側縁部分を対象に、浚渫幅約80m、長さ約420mの範囲を浚渫する。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 (株)酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱(株)

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、清水、菘木 URL：www.rppc.jp E-mail：

rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありませんでしたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

※メルマガ配信先に変更がある場合は事務局までご連絡下さい。

#####